

15. 高速道路等の交通網整備について

近畿部会提出
説明担当 京丹後市

高速道路は、活力ある地域づくり・まちづくりを推進するとともに、「命の道」として、非常時における緊急輸送・救急医療活動に効果を発揮し、その重要性は先の東日本大震災でも再認識されたところであり、府民の安全・安心と経済の活性化を図るためにも、最優先に取り組むべき重要な社会基盤施設であります。

しかし、京都府域の高速道路網は、約七割が完成したものの、連続したネットワークが形成されていないため、地域高規格道路を含む高速道路網が本来の役割を果たせずにおり、整備促進が不可欠であります。

特に、京都縦貫自動車道は、府域の南北を結ぶ背骨として太平洋側・日本海側の高速道路ネットワークをつなぐ重要な南北高速縦貫軸であり、また、鳥取豊岡宮津自動車道は、京都縦貫自動車道と一体となった日本海沿岸国土軸を形成し、広域的な機能を担う重要な道路であります。

さらに、新名神高速道路は、第二京阪道路や京奈和自動車道とネットワークを形成し、関西文化学術研究都市へのアクセス強化や府南部地域の発展に欠かすことのできない道路であり、新たな国土軸として、日本全体の物流を支えるとともに、災害に強い高速道路のダブルネットワークとなる道路であります。

しかしながら、第二京阪道路の全線開通後も名神高速道路の渋滞は緩和されず、また、京滋バイパスは渋滞が激増するなど、課題が顕在化してきております。

このため、高規格道路網のネットワーク化を進め国土ミッシングリンク解消のため一日も早い全線整備完成が府民の総意であり、次の事項について強く要望します。

記

- 1 京都縦貫自動車道の早期全線開通
 - (1) 京都第二外環状道路「大山崎・大枝間」の平成24年度完成
 - (2) 丹波綾部道路「丹波・京丹波わち間」の平成26年度完成
- 2 鳥取豊岡宮津自動車道の早期整備
 - (1) 「与謝天橋立・大宮森本間」の早期開通
 - (2) 「大宮森本以西」の国直轄による早期整備
- 3 新名神高速道路の全線早期整備
 - (1) 「城陽・八幡間」の平成28年度完成
 - (2) 国土ミッシングリンクである「大津・城陽間」及び「八幡・高槻間」の一日も早い着工